

[果樹部門]

2. 「おかやま夢白桃」の果肉着色を低減する葉色による肥培管理の目安

[要約]

「おかやま夢白桃」は葉色が著しく薄い樹では、成熟果実の果肉が赤く着色しやすいため、満開100日後に葉色（SPAD値）が40以下にならないことを肥培管理の目安とする。

[担当] 果樹研究室

[連絡先] 電話086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「おかやま夢白桃」は成熟果実の果肉が赤く着色しやすい特性があるが、消費者アンケートによると、この果肉の着色（以下、果肉着色）はなるべく少ないことが望ましい。果肉着色は葉色が薄い樹で多いことから、葉色、葉中窒素と果肉の着色との関係について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. ポット試験において満開70日後以降に窒素施用を行わなかった区では、満開100日後以降に葉色（SPAD値）が40以下となり、葉中窒素濃度も低くなる（図2）。
2. 窒素施用を行わなかった区では、成熟期に明らかに着色程度が大きく、果肉の赤みが目立つ果実の割合が増加する（図1、図3）。
3. ポット植え樹(23樹)及び地植え樹（16樹）の満開100日後の葉色（SPAD値）と成熟果実における果肉の着色との間には負の相関が認められ、40以下であると、特に果肉の着色程度が大きくなる傾向が認められる（図4）。

[成果の活用面・留意点]

1. 満開100日後の葉色は新梢基部の葉身長が5 cm以上の葉から先端方向へ7～8枚目の葉を測定する。
2. 著しい葉色の低下が認められた場合は、礼肥と基肥を増量し、次年度の樹勢回復を図る。
3. 葉色が著しく退色すると、葉脈や葉柄、新梢の表皮が赤みを帯びることが多い。
4. 果肉の着色程度が大きい果実と着色程度が小さい果実との間には糖度、香りなど果実品質に差がない。
5. 消費者アンケート結果（関連情報：山本ら）によると、果肉着色程度3以上では、約6割の回答者が、果肉の赤さを「やや気にする」と回答している。

[具体的データ]

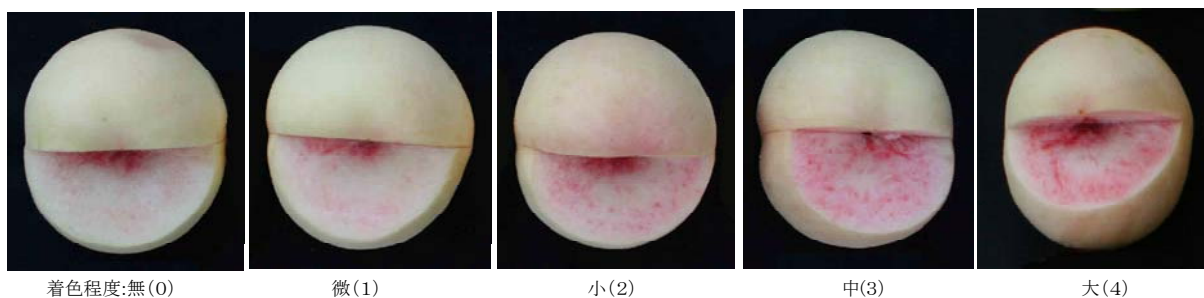


図1 「おかやま夢白桃」の果肉着色

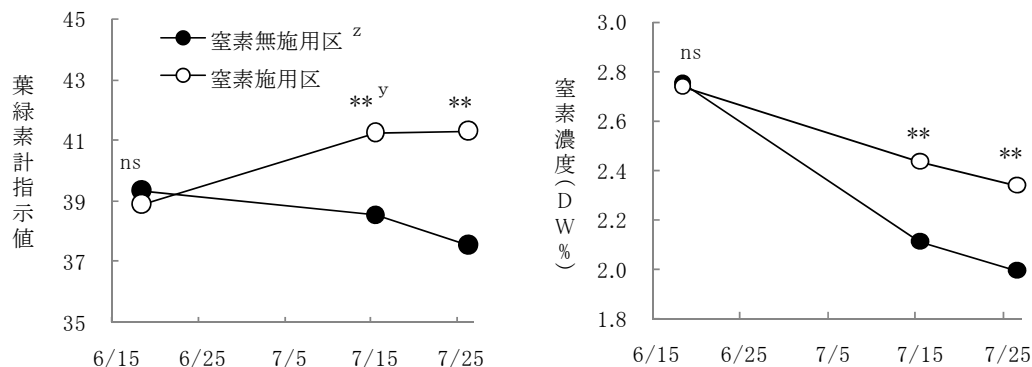


図2 窒素施用の有無が「おかやま夢白桃」の葉色、葉中窒素濃度に及ぼす影響(2010年)

^zポット個体で満開70日後以降を無施用とした

^y**は1%で有意差あり、nsは有意差がないことを示す(*t*検定)

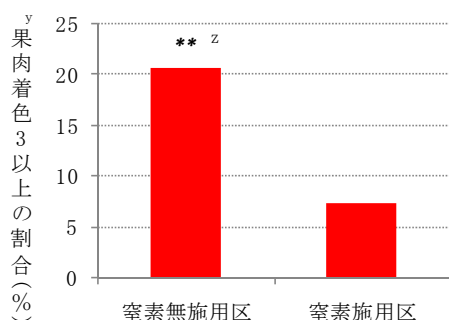


図3 窒素施用の有無が「おかやま夢白桃」の果肉着色に及ぼす影響(2010年)

^z**は1%水準で有意差あり(Tukey法)

^y着色程度は0:無、1:微、2:小、3:中、4:大として判定

注)ポット個体を供試した

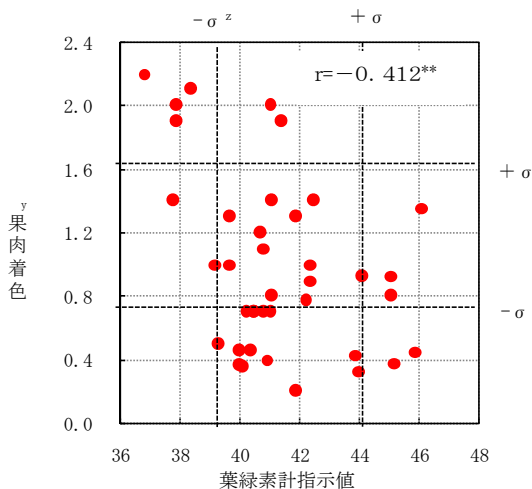


図4 「おかやま夢白桃」の満開100日後の葉色と果肉着色の関係(2011年)

^z図中の $\pm \sigma$ は標準偏差

^y着色程度は0:無、1:微、2:小、3:中、4:大として判定、

注)ポット及び地植え個体を供試

[その他]

研究課題名：おかやま夢白桃のブランド化のための安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2007～2011年度

研究担当者：藤井雄一郎、大浦明子

関連情報等：山本ら(2009)「おかやま夢白桃」の生産安定対策について、平成21年度高度技術現地調査研究事業報告書